



老化防止で脚光を浴びたNMNの数十倍のミトコンドリア活性を誇る「新型ビタミン」とは

これまで「老化」は生物の必然で、死と同様に逃れるすべはないと考えられてきました。ところが、最先端医学の世界では、「老化」は生物に必ず訪れる必然ではなく、ガンや心臓病のように「治療できる病気である」という認識に変わりつつあるのです。

例えば、ハーバード大学医学大学院教授のデビッド・A・シンクレア博士は、著書『LIFE SPAN（ライフスパン）』の中で「人類は老いない身体を手に入れ、誰もが人生百二十年時代を若いまま生きられる」と語

老化を止める新型ビタミン「5デアザフラビン」とは？

っています。また、オックスフォード大学で博士号を取得した計算生物学者のアンドリュー・ステイール博士は、著書『AGELESS（エイジレス）』の中で「老いは生物の必然ではない」「死ぬまで健康でいられる時代が始まる」と語っています。

なぜ、この数年でこれほど老化に対する考え方が変わったのでしょうか。その根本的な理由は、テクノロジーの進歩にあります。ゲノム解析の技術が飛躍的に高まったことで生物の全遺伝子が解明できるようになり、これまで見えなかったものが見えてきたのです。そして、老化に関わる個別の事象を分解していくと、治療できる病気のようなものということが分かってきたのです。

これを象徴的に表しているのがWHO（世界保健機関）から

発表された「ICD（疾病及び関連保健問題の国際統計分類）」です。ICDは、WHOが作成する病気の分類のことです。世界中の医療機関がICDをもとにして診断や医療統計調査を行っています。

ICDは、一九九〇年に発表された第一〇版を二〇一九年に約三十年ぶりに変更し、第一版としました。一〇版と一版の大きな変更の一つが、老化を治療可能な対象としたことなのです。WHOがICDを発表した背景には、二〇一〇年にロンドンの王立科学院に集まった世界最先端の科学者たちが導き出した「老化は治療できる疾患のようなものである」という結論があったといわれています。

さて、「老化」とひと口にいても、実は、その言葉が表す事象には大きく三つのレベルが

ール」や「NMN（ニコチンアミド・モノヌクレオチド）」というビタミンB3から作られる食品成分です。

NMNはレスベラトロールの数十倍強力で、マウスに投与した実験では、人間でいえば六十代のマウスが二十代に若返ったという驚くべき効果が発表されました。そして、NMNは一躍注目の成分となり、「若返りの妙薬」として世界中に氾濫（はんらん）するようになりました。現在、米国ではNMNを医薬品として申請する製薬メーカーが現れ、サプリメントとしての販売が禁止される状況になっています。

ただし、NMNはビタミンB3の骨格で、分子構造が不安定です。そのため、本来の性能を発揮できないケースも多いようで、劇的に効く場合もあれば、あまり効かない場合もあるらしいことが分かってきました。

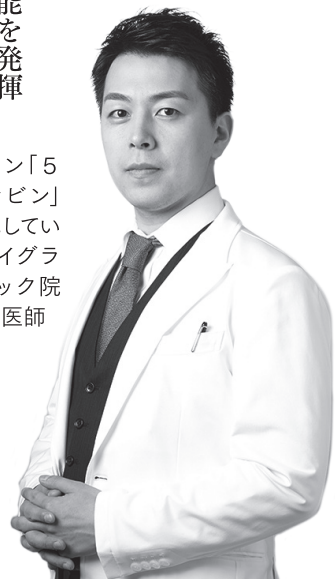
そこで、ビタミンB3よりも安定した骨格であるビタミンB2の骨格を土台にして、NMNのような効果を発揮するビタミンB3の骨格を製作できないかと考えた科学者がいました。

そして、この発想の転換は驚くべきことに大成を収めます。ビタミンB2から出発して、ビタミンB3の機能を持ち、

以上の安定性でその機能を発揮できるスーパービタミンが誕生したのです。

この新成分は、ビタミンB2の骨格をもとにビタミンB3の機能を再現すべく製作された、いわば新型ビタミンで「5デアザフラビン」とも呼ばれています。5デアザフラビンは、なんとNMNよりもサーチュイン遺伝子の活性が数倍高く、ミトコンドリアの活性に至っては数十倍も高いことが実験で判明しました。そして、さまざまな実験を経た後に動物実験が行われ、安全性や効果も非常に高いことが確かめられています。

現在、5デアザフラビンはサプリメントとして臨床の現場でさまざまな疾患に対して治療研究が行われています。そして、5デアザフラビンを観察研究している銀座アイグランドクリニ



新型ビタミン「5デアザフラビン」を観察研究している、銀座アイグランドクリニック院長の乾雅人医師

ック院長の乾雅人医師によると、臨床現場での診断的治療において高血圧、糖尿病、腎不全などに有効であったとの報告や、老化に伴うさまざまな症状、低体温などに対してかなりの効果があったという報告があります。

また、一例報告ですが、橋本病（膠原病、自己免疫疾患）、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病、脳梗塞に伴う神経変性疾患、うつ病などにも効果があったという報告もあります。

こうした報告から、日本先進医療臨床研究会では老化に伴う疾患や症状に対して新型ビタミン「5デアザフラビン」を使用した治療や予防の症例研究を行うべく、いく予定です。

そこで、今度はサーチュイン遺伝子を効果的に活性化させる物質に関する研究が進みました。その結果見つかったのが、赤ワインに含まれる「レスベラト